

令和元年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業実績報告書(横手市)

1 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題 ※事業概要から転記
(1) 各就学前施設において実施している、特徴ある保育に配慮した支援の在り方について検討が必要である。 (2) 就学前施設と小学校との接続連絡会の設置や交流内容にばらつきが見られる。 (3) 小学校・就学前施設教職員等の双方における子どもの学びの理解が不十分である。

2 目的、重点、実施内容

目的(3年間) ※事業概要から転記
本市において2016年度より実施済みの「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」の成果を踏まえ、就学前施設の教育・保育の質のさらなる向上と小学校への円滑な接続に向けた環境を整える。
重点(令和元年度) ※事業概要から転記
横手市幼小接続推進協議会開催、市主催の研修会を中心とした幼小接続に向けた理解と推進の基盤体制づくりに努める。
実施内容(令和元年度) ※事業概要から転記
(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実 ・市の小学校教育指導担当課である教育指導課に、指導主事1名と教育・保育アドバイザー2名を配置し、事業を実施することで、幼小接続に向けた連携を強化する。 ・教育指導課(小学校教育指導担当課)と子育て支援課(就学前教育保育担当課)との連携体制を確保する。 (2) 教育・保育アドバイザーによる園の支援 ・就学前施設の教育・保育の質の向上を目指し、保育力向上への取組として、指導主事と共に就学前施設における要請訪問による助言と園内研修支援を継続的に実施する。 (3) 専門性の向上のための研修の充実 ・就学前施設の教育・保育の質の向上に向けた取組として、就学前施設の課題に応じた研修会を開催する。 (4) 小学校教育への円滑な接続に向けた研修等の充実 ・就学前教育・保育と小学校教育の円滑な接続のため、育ちと学びに対する幼保小相互理解を図る取組として、研修会の開催、教職員の体験事業の継続実施、幼保小自主事業への支援を行う。 (5) 県との連携体制の確保 ・県の幼児教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会や研修会への継続参加をしていく。 ・県教育庁幼保推進課指導班からの助言をもとに体制の見直しを図る。 ・県教育庁南教育事務所総務・幼保推進班指導主事や県教育・保育アドバイザーと共に、園の課題解決や研修会運営のための情報共有をしていく。

3 令和元年度の実施状況

(1)部局間連携による教育・保育推進体制の充実

◇教育・保育アドバイザーの施設訪問状況(平成31年4月～令和2年3月)※見込み含む							
	幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	※その他 保育施設	小学校
施設・校数	4園	4園	園	30か所	園	7か所	17校
訪問施設・校数	4園	4園	園	30か所	園	7か所	17校
訪問回数	25回	25回	回	216回	回	0回	81回
月平均 訪問回数	2回	回	回	20回	回	回	7回
* 僻地保育所、児童館、小規模保育、事業所内保育施設、認可外保育施設							

<p>目的</p>	<p>教育指導課（小学校教育指導担当課）と子育て支援課（就学前教育担当課）との連携体制を確保し、事業を実施することで、幼小接続に向けた取組を強化する。</p>
<p>実施状況</p>	<p>○部局間連携により、それぞれの担当である小学校、就学前施設を総括した事業を展開した。昨年度末に設立した「横手市幼小接続推進協議会」では、協議委員として市民福祉部長、教育指導部長が入り、事務局は教育長を筆頭に教育指導課で運営した。6月の第1回協議会では、「令和元年度の接続推進の方向性4点」について共通確認し合い、小学校・保育所・認定こども園それぞれの部会で接続推進を図ることとした。接続についての共通事項が示されたことで、同じ方向性で推進に努めることができつつある。2月には、この4点について第2回目の協議会を開催し、成果と課題について協議し合う。</p>



第1回幼小接続推進協議会

(2)教育・保育アドバイザーによる園の支援

<p>目的</p>	<p>就学前施設への要請訪問を通して助言を行い、園内研修による課題解決、改善意欲の持続など保育力向上を目指す。</p>
<p>実施状況</p>	<p>○市の就学前施設34か所すべてを今年度中に訪問した。訪問実施の中で、2～5回と継続訪問をする園も増えてきた。訪問内容としては、保育参観をしておきの協議会、施設の課題に応じたテーマのもとでの園内研修、公開保育に向けての研修、園長及び職員の悩みに対する助言など多岐にわたっている。KJ法などで研修を自分たちで進めていく園が増えつつあるが、まだどう進めてよいか迷っている園もあるので、研修の仕方を紹介したり、ファシリテーター役となって研修を深めていけるような支援をしたりしてきた。また、市の保育協議会が主催する研修会やセミナーで講話をしたり、広報紙「よこてのめんこ」を作成・配付したりして、保育力の向上に向けての事業や他園、他校の頑張りを広めたりもしてきた。</p>



アドバイザーも入った園内研修

(3)専門性向上のための研修の充実


<p>目的</p>	<p>就学前施設の課題に応じた研修会を開催し、教育・保育力の質の向上と学びについての理解を深めることを目指す。</p>
<p>実施状況</p>	<p>① 第1回横手市保育実践力向上研修会 R1. 10. 29 【会場】 大森・沼館保育園、大森コミュニティセンター 【参加者】 市内就学前施設教職員等、市内小学校教職員 79名 【内容】 公開保育及び研究発表を通じた協議、講話を通して、保育士等の保育力向上を図るとともに、小学校教諭等の就学前施設での子どもの育ちと学びについての理解を深める。 午前：公開保育（大森保育園、沼館保育園） 午後：研究発表及びグループ協議、講話 講師：秋田県教育庁南教育事務所指導主事 石山 潤 氏 午前は2園での公開保育が行われ、幼小の教職員が参観し、午後の研究発表の後、グループ協議が行われた。小グループの中には、必ず幼小教職員がおり、同じ子どもの姿を見て、その学びや育ち、保育士の関わりや環境など多くの共通点に気付く感想が得られた。</p>



視点に基づいたグループ協議

	<p>② 第2回横手市保育実践力向上研修会 R2. 1. 15</p> <p>【会場】横手市交流センターわいわいプラザ</p> <p>【参加者】市内就学前施設教職員等 50名</p> <p>【内容】各幼児教育施設における要録の記載及び送付における小学校との連携について講義・演習を通して理解を深める。</p> <p style="text-align: right;">講師：秋田県教育庁南教育事務所指導主事 石山 潤 氏</p> <p>幼児施設職員から要望のあった要録についての研修を行った。保育所・認定こども園の両施設から参加者が集まり、前半は記載についての具体的な話を聞くことができた。後半は、持ち寄った保育の記録をもとに、実際に記載してみるという演習を行った。参加者からは、「他園との意見交換ができてよかった」「他者の記入から気付かされることがあった」というように、これから記載する要録に見通しをもつことができた感想が多かった。また、「園内研修でもっと多くの職員に広げたい」「要録の記載を通して、自身の保育を振り返る機会としていきたい」という声もあり、充実した研修会になったと感じる。</p>
--	--

(4) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実

目的	<p>就学前教育と小学校における子どもの育ちや学びの違いについて理解を深め、円滑な接続実施につなげる。</p>
実施状況	<p>① 職員の体験事業の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士等による1日学校体験参加者 41名 ・小学校教職員による1日保育体験参加者40名 <p>体験終了後、全教職員が報告書を提出した。その中には、体験を通して確認した子どもの力が共通していたり、つながったりしていて、やはり子どもの姿をつないでいくことの重要性が表れていた。また、子どもへの関わり、環境構成などについて互いに学び合う振り返りも見られた。</p> <div style="text-align: right;">  <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">小学校での体験の様子</p> </div> <p>② 交流事業における年長児の給食体験の推奨</p> <p>各小学校区域で、幼小の教職員が連絡を取り合い実施している。1年生と交流しながら食べたり、5年生と一緒に食べたりと各小学校区域で工夫した取組が行われている。しかし、1校1園同士は実施しやすいが、1校多園の地区はそれぞれの実施は難しいところがある。</p> <p>③ 小学校区単位での接続期カリキュラム検討の推奨</p> <p>横手市幼小接続推進協議会の方向性を受け、各小学校区域で、1年生のスタートカリキュラム、年長児のアプローチ的カリキュラムの作成が行われている。また、それぞれのカリキュラムを交換し合ったり、年度中に見直し・検討をし合ったりしている小学校区域もある。さらに、幼小互いの保育参観・授業参観を行い、研究協議にも参加している地区も出てきている。年長児の就学に向けた連携だけでなく、互いの教育の理解への取組を少しずつ図っている。</p>

(5) 県との連携体制の確保

目的	県と連携・協力することで、教育・保育の課題解決や市の体制の整備・充実を図る。
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○県との連携・協力 ・教育・保育アドバイザー連絡協議会（全6回）参加 ・秋田県就学前教育理解推進研究協議会（8/2）参加 ・就学前・小学校地区別研修会（南地区8/6）参加 ・就学前教育推進協議会（8/29）横手市の事業概要について説明 ・その他新規採用者研修、5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修などにも参加 ・県教育庁幼保推進課指導班からの助言をもとに体制の見直しを図る。 ・県教育庁南教育事務所総務・幼保推進班指導主事や県教育・保育アドバイザーと同行訪問し、園の課題解決や研修会運営のための情報共有。

4 事業の成果及び今後の課題、改善の方策

(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・事業工程表をもとに、協力しつつ事業を進めることができた。 ・各担当である小学校、就学前教育施設それぞれへの事業周知がしっかりと図られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎が離れていることもあり、電話や回覧板などによる情報提供はしてきたが、お互いの進捗状況を把握するのが難しいところもあった。 ・県からの連絡がどちらか一方にしか伝わっておらず、知らずにいたことがあった。
改善	連絡会、進捗状況報告会などを定期的に行き、それぞれの課の事業内容を把握しつつより相談しながら行っていく。

(2) 教育・保育アドバイザーによる園の支援

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全ての就学前施設を訪問することができ、複数回の継続した支援も可能となった。 ・訪問を通して、就学前施設教職員等の研修への意欲が高まってきた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校関係者からの目線であったり、理論上の助言になったり、言葉が抽象的だったりして、保育士に寄り添いきれていないのではないかと感じる時がある。 ・要請訪問やアドバイザーの活用方法について、施設の理解が得られていない部分がある。
改善	施設との研修前の連絡を密にし、園内研修方法を提案しながら訪問時を迎えていくようにする。園内研修をコーディネートしながら、徐々に園に任せていけるよう支援する。就学前施設への要請訪問やアドバイザー活用の説明機会をもつようにする。

(3) 専門性向上のための研修の充実

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小の教職員が公開保育を通して協議を行うことで、学びの理解につながった。 ・市の保育協議会が今後も公開保育を継続していくことを提案してくれ、就学前施設の保育力向上がさらに期待できる。 ・小学校につながる要録について、基本的な記載について共通理解することができ、実践的な研修となった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教職員の参加者が少なく、各校の研修への理解浸透が足りなかった。 ・研修内容が多くなり、グループ協議の時間がより深い話し合いに至るには少なかった。
改善	より教職員の要望に応じた研修会を企画・運営するとともに、参加が見越せる日程調整、内容、時間配分などを検討していく。

(4) 小学校教育への円滑な接続に向けた研修等の充実

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の体験事業により、幼小それぞれの子どもの力（資質・能力）について共通理解することにつながった。 ・横手市幼小接続推進協議会開催による接続の方向性に基づいた推進を図ることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校区ごとの接続期カリキュラムの見直し・検討実施に差がある。 ・年長児の給食交流体験事業の実施が難しい部分がある。
改善	校長会の協力を得ながら、カリキュラム検討についてさらに推奨していく。給食体験事業については、実施校・未実施校からの声をもとに、再検討が必要。

(5) 県との連携体制の確保

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー連絡協議会参加を通して、園訪問の方向性やアドバイザーの課題などについて共有・相談しつつ進めることができた。 ・県指導主事や県アドバイザーと同行訪問することで、情報を共有し合うことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県との連携、南地区との連携という具合に、それぞれとの連携は取れているものの、一体的な連携になっていないところがある。 ・当初は、県主催の研修会、他市町村の研修会に参加する予定ではあったが、県との連携が不十分で、参加が思うようにできなかった。
改善	年度の早い時期に、県や他市町村と、連絡調整や連携のシステムなどをしっかりと確認していきたい。

5 令和2年度の事業の構想

目的
昨年度の事業の成果と課題をもとに、県と連携しながら、就学前施設の教育・保育の質の更なる向上と小学校との円滑な接続に向けた体制構築の充実を図る。
実施内容
<p>(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援課との定期的な打合せの機会を設け、さらに連携をして事業を進める。 ・横手市幼小接続推進協議会を開催し、令和元年度の課題を受け、その方向性を協議し合う。 <p>(2) 教育・保育アドバイザーによる園の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続した訪問を続け、身近な相談者として力になりつつ、保育力の向上を図る。 ・保育参観の大切さを広げつつ、園内研修を行っていけるよう努める。 <p>(3) 専門性向上のための研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画についての研修会 ・公開保育を通しての研修会 <p>(4) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小の教職員が一緒に学び合える研修会 ・接続期カリキュラムについての研修会 ・幼小各施設の研究授業や要請訪問の情報を公開し、参加を促していく。 <p>(5) 県との連携体制の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡調整、連携の仕方について年度初めにしっかりと確認し、より多くの研修会へ参加していく。 ・他市町村へ研修会情報を広げたり、逆に集めたりして市町村間の連携をとっていく。

様式